

各関係機関の長  
各病虫害防除員 殿

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター所長

平成29年度病虫害発生予察注意報第6号について

平成29年度病虫害発生予察注意報第6号を発表したので送付します。

---

## 平成29年度病虫害発生予察注意報第6号

平成29年9月29日

宮 崎 県

病虫害名 果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ）

作物名 果樹全般（カンキツ、ナシ、カキ）

1 発生地域 県下全域

2 発生量 やや多

### 3 注意報の根拠

#### (1) ツヤアオカメムシ

県内3ヶ所に設置しているフェロモントラップの誘殺数はやや少から平年並であるが（データ省略）、県内5ヶ所に設置している予察灯の誘殺数は、9月下旬に増加している（図1）。特に日南市では、9月第5半旬の誘殺数が353頭（平年91頭）と平年に比べて多となっている。

#### (2) チャバネアオカメムシ

フェロモントラップの誘殺数は平年並で（データ省略）、予察灯の誘殺数は、8月第5半旬から9月第2半旬にかけては並から多であったが、9月第5半旬には平年並からやや多となっている（図2）。

(3) 果樹園への飛来が確認されている地域もあり、一部のほ場では果実への被害も確認されている。

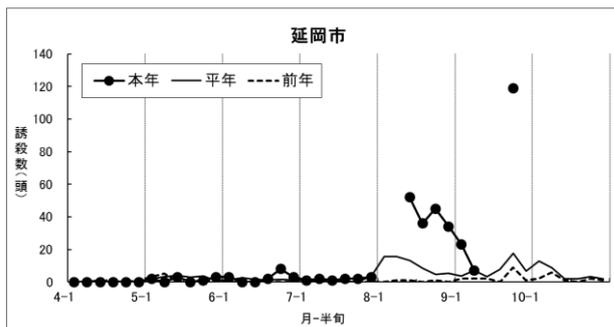
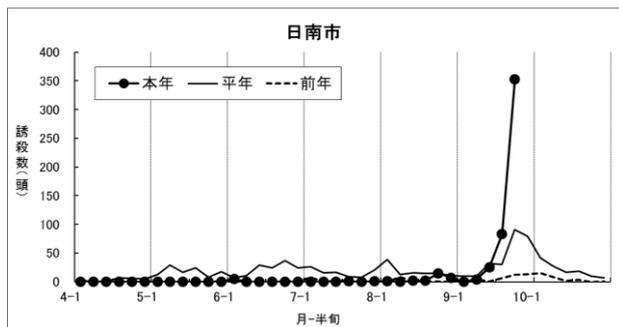


図1. 予察灯におけるツヤアオカメムシ誘殺数の推移

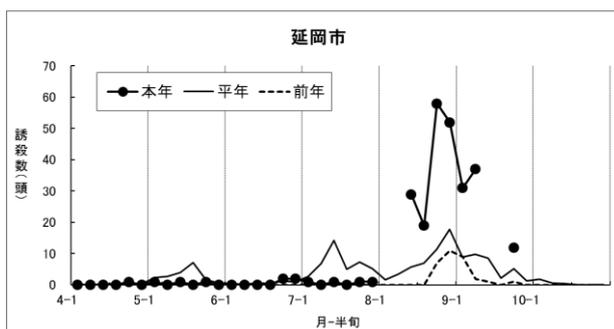
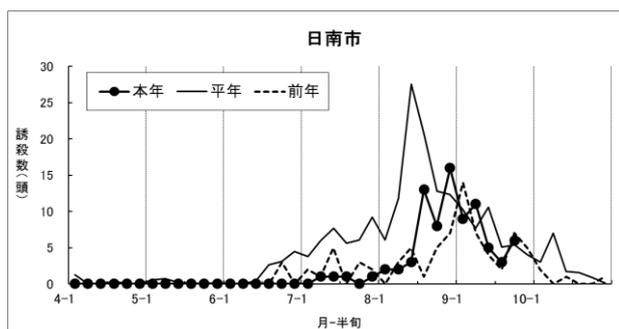


図2. 予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移

#### 4 防除上の注意

- (1) カメムシは園外から飛来し、地域や時期によって発生量が大きく変動する。多飛来を見てからの防除では手遅れとなるので、園内外を見回り、早期発見、早期防除に努める。
- (2) 果樹園に侵入したカメムシは、集合フェロモンにより、同種を大量に誘引し被害が拡大するおそれがあるので十分注意する。
- (3) 飛来初期には残効の長い合成ピレスロイド系薬剤やネオニコチノイド系薬剤で防除を行うと効果的である。ただし、これらの薬剤は多用すると天敵等への影響が大きく、ハダニ類等の発生を助長しやすい。このため連用を避け、系統の異なる薬剤とのローテーション散布を行う。
- (4) 収穫中もしくは収穫時期が近い品目については、農薬の使用回数や収穫前日数に注意し防除を行う。

●農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

●その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください

#### 《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課  
（病害虫防除・肥料検査センター） 松浦

TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127

E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp